

想像・協調・懲罰

内田智士

はじめに

人間は想像する生き物である。人とそれ以外の動物との大きな違いは、人が想像力を持つことだと言われている。動物としてヒトと最も近いチンパンジーでさえ、想像力を持っていないようなのである。

人間の想像する力は、人類の発展に大きな寄与をしたと考えられている。数年前にベストセラーとなったユヴァル・ノア・ハラリの著書『サピエンス全史』によると、進化過程での「認知革命」により、人間が想像力を獲得したのは比較的最近で、それが人類の繁栄に大きく寄与したという。想像力のおかげで私たちは、その場にはいない人や会ったこともない人、この世に存在しない人（先祖や子孫）について語ったり考えたり思ったりすることが出来る。このことが空間的・時間的に離れた人との協調と連帯（大規模な協調と連帯）を可能にし、それが他の動物にはない人類の強みとなっているのである。

また日常生活において、想像力を持つことは重要である。例えば、他者の心情（何を考え思い、どう感じているか）を完全に理解することは不可能である。そこで私たちは想像力を用いて他者を理解し、他者に共感をする。要するに共感とは、他者も自分と同様、喜びや痛みを感じると了解することであるが、このことが社会にとって重要であることは自明であろう。他にも、想像力によって様々な事柄をシミュレーションすることができ、そのおかげで計画を立てることができる。

このように想像力は人間の重要な能力の一部なのであるが、本稿では想像力が人間社会へどのような影響を及ぼしているのか、特に大規模な協調関係の形成と関連したことを述べていきたい。